



中間テストが終わりました 夏休みまであと1か月です ここで . . . . .

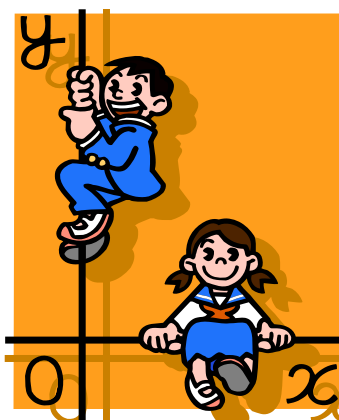
## 「勉強 (べんきょう)」 についてかんがえてみましょう

中間テストが無事終了しました。また、2年生の学習が軌道に乗ってきているところです。昨年がんばれた人も、あまりがんばれなかった人も、心機一転がんばろうという気持ちになっていることと思います。事実、4月にある学級の授業開きの時、みんなのやる気がひしひしと感じてきました。

そこで、今回は「勉強」という言葉の意味を考えてみたいと思います。生徒の中には、結局「勉強しろ!」ということなんだろう、と言いたい人もいます。結論からすればそういうことなのですが、意味を知ると知らないとは大違いです。みなさんにちょっとつき合ってもらうことにします。

勉強という熟語を(くわしい)辞書で引くと、次のように出ています。

- ① 努力して困難に立ち向かうこと
  - ② 気がすまないことをしかたなしにすること
  - ③ 仕事や学問を一生懸命にすること・将来のためになる経験
  - ④ 品物を安く売ること
- 日本国語大辞典より



学問を一生懸命することや将来のためになる経験をすることと品物を安く売ることとは全くちがう2つの意味をもっているようにみえますが、そういう場合、2つはその奥で1つにつながっているのが普通です。学問と安売り、この2つは、ともに「努力して困難に立ち向かう=無理にでも努力する」という点で共通しています。学校の勉強が、すこしは無理をしないとできないことは、経験上知っていると思います。商品について、勉強しときますよ(この表現、現在 はあまり使いませんが)、というときも、ちょっと無理をして値引きをするという意味が込められています。このように考えると、気が向いたらやる、いやになったらやめてしまうでは、本来の勉強にはなりません。1年の目標、1か月の目標、1週間の目標、今日1日のやるべきことなど、つねに決めてそれに向かって努力していくことが勉強だといえます。



また、テストというと、すぐによい点数をとりたい、通知表の成績をよくしたいという気持ちが先行してしまう人がいます。成績を上げるための勉強も試験前の勉強の1つの目的かもしれませんが、それだけではありません。テストには、自分の理解の不十分なところを知ったり、学習方法のまずいところを反省したり、学習の意欲を高めるという目的があります。テストが終わったらそれでおしまいではないことがわかんと思います。答案が返されてからが大切であり、次の学習に役立ててこそテストの目的も達成できると思います。



本来の勉強は、もちろん、テストがない教科にもあてはまります。私自身、絵が上手な人、自分の工夫でいろいろなものを作る人、スポーツが得意な人、歌や楽器が上手な人をうらやましく思います。できるようになりたいなあとも思います。でも、すぐにできるようになるのでしょうか? できる



(うらにつづく)





**お知らせ**

来週のご学習予定

[illegible]